

# 令和7年度第1回高知市在宅医療・介護連携推進委員会市民啓発WG議事録 (要約版)

開催日時：令和7年9月3日（水） 18：30から20：30

開催場所：総合あんしんセンター3階 中会議室

出席者：【委員】森本 俊介、有光 一樹、細川 忠、田中 繁樹、藤井 貴章、  
和田 真樹、川澤 成子、武正 和也（敬称略）

【事務局】基幹型地域包括支援センター 半田  
地域共生社会推進課 川田、森本

欠席者：【委員】戸田 理恵、石黒 純子、藤崎 忠男（敬称略）

## 1 協議事項

### (1) 令和7年度高知市在宅医療・介護連携推進事業 市民フォーラムについて

事務局から資料を用いて説明を行い、企画内容や周知啓発に関して意見交換を行った。

#### <意見交換>

(和田委員) 当日参加者に「想いをかなえるノート」や「わが家の思い出ノート」等のツールは配付されるのか。

(事務局) 定員分用意しているので配布可能である。

(和田委員) ケアマネジャーから声をかける上で、参加者に特典がある方が誘いやすい。チラシのデータをいただければ、当協議会ホームページにも掲載可能である。

(藤井委員) 「人生会議」＝「ACP (アドバンス・ケア・プランニング)」であるが、人生会議について全く知らない人にはALP (アドバンス・ライフ・プランニング) の考え方が入りやすいのではないか。世間的にはACPの考え方で進んでいる側面もあるが、あまり医療やケアの選択だけにこだわらなくてもよいかもしれない。ツールについては、決まったツールを使うような促しではなく、どれでもよいので使ってみようということではよいか。

(事務局) 活用するツールに対しては、複数あるものの中から本人に選んでもらうという考え方である。フォーラムの内容は、藤井委員の発言のとおり、いきなり人生の最終段階の医療やケアに関することから入るのは難しいと思う。まずはALPの考え方から入り、ゆくゆく人生の最終段階の医療やケアの選択にたどり着く展開になるよう、講師や話題提供者と検討していきたい。

(川澤委員) 自団体で研修会を開催する際にも、集客について悩むことがある。図書館やスーパー等、誰もが使う施設への設置はどうか。

(有光委員) 今回の市民フォーラムでターゲットとするのは誰なのか。対象者によって宣伝の仕方は異なってくると思う。

(事務局) 事務局として考えている対象者は、退職後（60歳以上）の方で、平日午後にも時間的な余裕がある方を想定している。この対象者にアプローチすることで、人生会議を自分のこととしてだけでなく、家族のこととしても考えることができるのではないかと考えている。

(田中委員) 調剤薬局がコンビニと同じくらいの数あるので、周知する場として活用していただければよいと思う。チラシ設置やポスター掲示もできると思う。まずは高知県薬剤師会に相談していただき、理事会で承認を得てもらう手続きが必要である。

(事務局) 薬剤師会への協力依頼については改めて事務局内で検討したい。

(和田委員) ドラックストア等も身近に利用者さんが訪れる場所だと考える。いきいき百歳体操会場や認知症カフェ会場等でも配付したらよいのではないか。

(事務局) ドラックストア等への周知依頼について、行政からお伺いするルートがないため、すぐに協力依頼するのは難しいが、いきいき百歳体操会場や認知症カフェでの啓発については、ぜひ地域包括支援センターさんの力を借りることができたらと思う。

(武正委員) いきいき百歳体操会場には熱心な方が参加してきているので、啓発の効果があると思う。

(森本委員) いきいき百歳大交流大会の実行委員をしているので、その立場からの意見になるが、10月23日にオレンジホールで開催予定であるので、市民フォーラムの締切が間に合うのであれば配布できると思う。ただチラシが白黒印刷では、誰の目にも止まらないと思う。

(事務局) 予算の関係上、クリーム色のカラー紙に白黒で印刷することとしている。

(森本委員) いきいき百歳体操会場は約300か所近くあるが、そこに郵送するというのも予算的に難しいと思うので、いきいき百歳体操会場への周知は地域包括支援センターに協力してもらえないのではないだろうか。またいきいき百歳大交流大会での配布も可能だが、配布方法については検討が必要。実際に会場にブースを構えてもらって啓発をするような機関もある。

(藤井委員) 白黒では目につかないと思う。ポスターだけでも、カラーで刷ることはできないのだろうか。

(事務局) ポスターの作成は検討していない。チラシのデータも白黒で作成している。今年度は講師予算のみ確保できた状況である。これからできる限りの工夫を検討していきたい。地域包括支援センターさんに全部のいきいき百歳体操会場や認知症カフェを回っていただくのは難しいので、日常業務の中での啓発をお願いできればと考える。

(武正委員) そのような形での啓発は可能である。また多職種連携ワーキングの委員にも相談するのはどうか。多職種連携ワーキングの委員は医療機関に所属する方も多いので、啓発先の一つとして病院を検討するのはどうか。

(和田委員) 駐車場の件だが、オーテピアは決まった時間内は無料で駐車できると思う。街中の駐車場はどこも有料だというイメージを持っていると思うので「駐車場は無料」だということをアピールするのはどうか。

(事務局) オーテピアと提携を結んでいる駐車場がいくつかあり、そこを利用した場合も決まった時間内無料になると聞いている。その説明をチラシに書ききることが難しく、前例を参考にした書きぶりになっている。先ほどの森本委員の発言で申込締切について触れられていたと思うが、今回は開催日前日11月10日まで受付する予定である。市民フォーラムの開催結果は在宅医療・介護連携推進委員会で報告する。

## (2) 広報あかるいまち 令和8年3月号特集ページについて

事務局から「広報あかるいまち」での啓発について説明し、他市町村の広報での特集内容を参考にしながら意見交換を行った。

### <意見交換>

(細川委員) 文章が多いと情報が伝わりにくい。調査結果がグラフ化されていたり、絵やイラストが多い方が目に留まりやすい。

(藤井委員) 熊谷市の広報にある、「人生会議を始めてみましょう」の4つのステップ等を参考にするのはどうか。1ページ使った説明はインパクトがあり、もう1ページを文字中心で説明するのはどうだろうか。

(事務局) 事務局としても、この4つのステップは参考にしたいと思っている。一方で、ページの大部分を使うことになるため、他に伝えるべきことを掲載できないのではないかと、という考えもあるのではないかと考えていた。市民の中には、大事だと思った内容が掲載された広報をしばらく取って置いてくれる方もいるため、人生会議の大切さを伝えるのはもちろんだが、人生会議の手立てを伝えることができればいい。

(和田委員) 小牧市の広報の救急部門からのコメントがよいと感じた。このまま家で亡くなりたいと思っても、慌てて救急要請することはよくあることなので、吹き出し程度でも構わないので救急部門のメッセージを掲載するのはどうだろうか。

(事務局) 救急部門への相談は検討してみる。事務局としては医療や介護の専門職からのメッセージがあるのもよいと感じている。

(有光委員) 実際に人生会議をやった方や出前講座や市民フォーラムを受講した方のコメントが掲載される方がよいと思う。専門職のコメントも良いと思うが、どのようなきっかけで人生会議に取り組んでみようと思ったのか実際の声を聞いてみたい。

(事務局) 実際に人生会議に取り組んだ住民さんに出会う方法について案はないか。

(有光委員) 市民フォーラムに参加した方の感想がよいのではないか。

(森本委員) 掲載内容についてだが、いきなり記事から始まるよりは、藤井委員の意見にあったように人生会議のやり方が記載されているのがよいと思う。専門職のコメントももちろん良いと思うが、有光委員の意見にあったように、市民フォーラムに参加し、人生会議に取り組んでみた方の声を掲載するのが良いと思う。高齢者本人や家族それぞれの立場で聞けたらよい。市民フォーラムが毎年開催する企画であれば、来年の市民フォーラムの開催案内を一言掲載するのもよい。

(事務局) 皆さんの意見を伺うと、人生会議の啓発や市民フォーラム、消防局との連携等について、連動させるようなイメージをもって紙面を埋める内容を検討したいと思った。

(田中委員) 広報が人生会議を実践のきっかけになるように、実際に人生会議をやってみたくてと思った人が、書き込めるようなスペースがあるのがよい。ちょっと家族で話し合ってみよう、というメッセージもよいのではないか。写真としては三原市の広報のような「高齢者とその家族が座って話し合う」イメージのものがよいと思う。

(川澤委員) 広報を見ている方の中には、人生会議という言葉を知らない方が多くいるので、「人生会議について初めて知る機会になる」というところを狙うというのもよい。

(武正委員) 川澤委員の意見に関係するが、人生会議を知らない人に「なぜ人生会議が大事なのか」というメッセージを伝える必要がある。多くの市町村が取り上げていた「命の危機が迫った状態になると約7割の人が医療・ケアについて自分の意見を言えなくなる」というメッセージ等を根拠に、人生会議の重要性が伝わる工夫が必要。

(事務局) 広報は広く市民に配付されるものなので、若者や親世代のことを考え始めた世代、当事者として考え始める世代など、多世代が見ることを想定する必要があると考える。委員のみなさんから頂いた意見を踏まえ、広報作成業務を担う部署と話し合いながら紙面作りを進めていく。

### (3) 高知市本庁舎1階 デジタルサイネージでの啓発にむけて

事務局から資料を用いて、今後市役所本庁舎内でのデジタルサイネージを利用した啓発の可能性について意見交換を行った。

#### <意見交換>

(田中委員) デジタルサイネージで1日に放映される動画は何本くらいあるのか。

(事務局) 「1課最大30秒まで」という決まりがあり、数10本程度の動画が循環している印象がある。

(武正委員) 基幹型地域包括支援センターでは9月に認知症の啓発のため、デジタルサイネージでの啓発を行っているが、動画再生時間を30秒以内に収めるのに苦慮したと担当から聞いている。

(田中委員) デジタルサイネージで放映する動画についてだが、高知市独自の動画作成を検討しているのか。

(事務局) 現時点で事務局として市独自に動画を作成することは、スキル面においても費用面においても検討していない。既存の動画を使用できないかと考え、厚生労働省が作成した動画を確認したり、静止画を流す方法も検討している。30秒で人生会議の重要性について伝えることの難しさに直面している。

(田中委員) 動画で伝えきることが難しい場合には、QRコードを貼り付け「詳しくはこちらへ」と、詳細な内容を掲載したホームページや参考になる動画にリンクできるような仕掛けがあるのもよい。

(和田委員) 30秒の動画で人生会議の重要性を惹き付けるのは難しいと感じた。最初は静止画を流すことから始めてよいのかもしれない。在宅医療・介護連携推進事業関係のいくつかの事業と連動した啓発ができればよい。現状できる取組を実績として積み上げて、必要な取り組みについては予算要求していくことができればよいと思う。

(藤井委員) 市役所の2階・3階と1階では、来庁者数が圧倒的に違うと思う。1階のデジタルサイネージで啓発するのであれば、時間的な制約があるという課題があるが、実際に15秒や30秒で大事なことを伝えきるのは難しいと思うので、欲張りすぎず、研修会やイベント等の啓発をすることでもよいと思う。

(細川委員) 先ほどの広報誌の協議資料にあったような、人生会議の手立てを静止画として繰り返し放映するのもよいのではないだろうか。

(有光委員) 市役所来庁者はあらゆる年代層が来ると思うので、狙いは「人生会議とは何か」

というところに絞った内容でもよいと思う。

(森本委員) 動画で伝えることは難しいと思うので、伝えたいフレーズをつなぎ合わせて静止画を繰り返し放映する方法が良いと思う。静止画で惹き付けておいて、詳しく知りたくなった方に、研修やイベントの案内に飛べる仕掛けがあればよい。動画を作成となると技術的に高度になるかもしれないが、2次元コードでつなげる先を工夫することは簡単にできるのではないか。